

ヒトヘルペスウイルス6Bの宿主受容体を発見

神戸大学提供
作成日 2016年3月4日
更新日

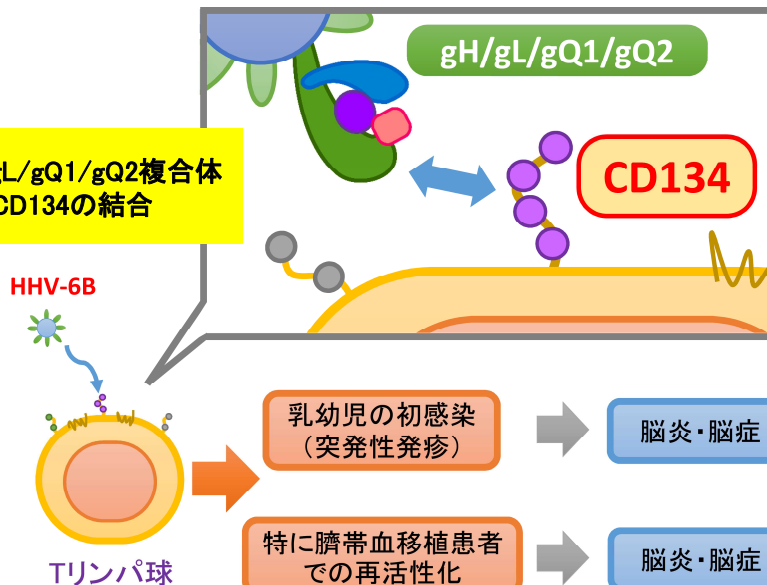


研究者氏名 もり やすこ 森 康子	所属機関 神戸大学 大学院医学研究科	関連キーワード(複数可) ヒトヘルペスウイルス6B、受容体、小児感染症 突発性発疹 脳炎・脳症、ワクチン・治療薬の開発
主な研究テーマ ・ヒトヘルペスウイルス6に関する研究		主な採択課題 ・基盤研究(B)平成24～26年度(配分総額:18,850千円) 課題名「宿主受容体の同定によるヘルペスウイルス侵入機構の解明」

科研費による研究成果

ヒトヘルペスウイルス6B (HHV-6B)は、乳幼児に感染し、突発性発疹を引き起こす。時に脳炎を引き起こし、後遺症を残すことから問題視されている。しかし、HHV-6Bがどのようにしてヒトに感染するのか、未だ明らかでない。我々は、HHV-6Bのヒト受容体が**CD134**であることを発見した。HHV-6Bのウイルス表面にある**gH/gL/gQ1/gQ2複合体**とヒト側のCD134が、鍵と鍵穴のように結合することが、感染を決定付けることを明らかにした。

HHV-6BのgH/gL/gQ1/gQ2複合体と受容体CD134の結合



当初予想していなかった意外な展開

ヒトの活性化Tリンパ球に発現するCD134が、HHV-6B感染を決定する要因のひとつであることを明らかとした。この成果は国際学術雑誌 **米科学アカデミー紀要** に掲載された。また**朝日新聞**、**神戸新聞**、**産経新聞**、**日経新聞**、**読売新聞**といった一般メディアにも広く取り上げられ、HHV-6B感染症の制御に向けたブレイクスルーとして紹介された。

今後期待される波及効果、社会への還元

- ・本発見により、今まで、明らかにされていなかったHHV-6Bの感染機構が解明され、ウイルス学の発展に貢献できる。
- ・また、**HHV-6Bの感染制御法**の開発に繋がり、**国民の健康増進**および**医療費の削減**への貢献が期待される。